



ホタルのふるさと 横浜 瀬上沢

特定非営利活動法人
ホタルのふるさと瀬上沢基金

会報 No.2

2010.1.15

〒234-0054 横浜市港南区港南台 9-30-31
Tel 090-6191-1861 / Fax 045-832-9167

E-mail segamikikin@gmail.com

ホームページ <http://www.segamikikin.org/>

県認証番号：N協第 1083 号

法人登録番号：0200-05-006727



舞岡上郷線西側の瀬上沢



田んぼ復元の例

空気が有料になる？

理事長 角田東一

緑地の最も重要な役割は、私たちに不可欠な酸素を供給し温暖化の原因となっている CO2 を吸収していることです。そのほかにも、太陽熱を吸収放出して温度変化を抑え、衣食住のほとんどを支え、生物多様性を保持し、人々の心を癒し、子供たちへの元気の基となるなど、多くの恩恵を与えています。これらの恩恵は、農業や林業の副産物として無償で提供されてきました。

緑地のほとんどは農業や林業で支えられています。しかし農林業は、後継者不足により従事者が大幅に減少し、もはや緑地を支られなくなって来ています。緑地減少と CO2 増加は、温暖化の進行により人間の生活にも影響を与える段階になってきました。さらに緑地が減少していけば、空気はボンベで買って吸うようになるかも知れません。

緑地を残し、今まで通りの恩恵を受け続けるにはどうしたら良いのでしょうか？

それには、減少する農林業従事者の補完が必要です。多くの市民が参加して、緑地の取得や借用、田畑の復元、里山の間伐や掃除刈り、土手の草刈り、旧道の整備、援農、などを行い次世代に引き継いでいくことが必要です。直接保全活動に参加することはもとより、基金に寄付することでも活動が支えられ、参加したことになります。

「ホタルのふるさと瀬上沢基金」が成立してから1年余り経過しました。おかげさまで瀬上沢緑地全面保全の趣旨に賛同いただき、延べ500名を超える方から、200万円以上の寄付を頂きました。本当にありがとうございました。

本年度寄付収入予算は500万円ですが、全面保全には3億円くらいの寄付が必要となるでしょう。皆様のますますのご支援をお願い申し上げます。

横浜栄高校とのコラボレーション

「地域清掃活動」

理事 平田 照宙

神奈川県立横浜栄高等学校(旧上郷高等学校)主催の「地域清掃活動」が10月22日に行われ、始めてコラボレーションとして参加しました。

今回は、生徒、1年生240人、保護者15人、職員20人、に瀬上沢基金、SBKから9人が参加しました。



まず校庭に集合した生徒と先生と父兄の皆さんに校長先生から瀬上沢基金、SBKの紹介があり、7組に別れ港南台駅から学校までの通学路周辺の清掃に取り掛かりました。

瀬上沢基金とSBK会員は1年7組の生徒、父兄、職員、約40名と一緒に、舞岡上郷線5丁目交差点から環状4号線尾月橋までの両側延べ約2kmの清掃とゴミ拾いをしました。

小はタバコの吸殻から大は段ボール、錆びた鉄フレームなど最終的には全部で大ゴミ袋満杯で30個以上になりました。

私たちは子供や孫と同じ年代の生徒で、この世代とは普通あまり話す機会がありませんが、自然の中で、野草の名前を聞かれたり、関連した自然保護の話など子供達との会話を楽しみながら、心地よい汗を流しました。(1)

生徒達は今年中学を卒業して、やっと高校生活に慣れたところで、まだあどけなさを残しており、真面目に年寄りの話を聞いてくれる、良い子たちでした。

好奇心が強く、道端に生えている草花の名前など聞かれました。

例えばシロツメクサを見つけ、名前の由来を尋ねられ、昔海外からの荷物に詰め物としてこの草の干草が使われていたことでその名前が付けられたこと、その種から日本で繁殖を始めた外来種であることを話すと、今まで白い爪の草かと思っていたと大変興味を示してくれました。

これに関連して、日本から海外に輸出した瀬戸物の詰めものに和紙が使われ、その中に浮世絵が印刷されたもの入っていて、ヨーロッパで、始めて浮世絵の存在が知られ、その美しさが賞賛されたことを話すと、ゴッホが浮世絵を背景に描いた絵を見たことがあるなど敏感に反応があり、話が弾みました。

あっという間に時間が過ぎた子供達と一緒に気持ちの良い汗をかいた2時間でした。

次の行事も楽しみです。皆さんも参加しませんか。



私 と 瀬 上 沢



土村 美保子 (理事 横浜市港南区)

瀬上池や瀬上沢の緑地帯は子ども達を精神的にも肉体的にもそして社会性をも育んでくれたところです。私にとってホテルと共にかげがえのない宝です。

降幡 富志子 (理事 横浜市港南区)

瀬上沢は自然の美しさのみならず文化遺産が多くあるところです。JRの駅からも近くぜひとも後世に残して置きたいとの思いから古希を過ぎた今、残された時間を自分のできることで協力したいと思います。



コラム 水田を想う



45億年かけた自然攪乱と生物の進化により今日の多様な生物の棲む地球がある。人類は、発生以来、ずっと自然に作用を及ぼしてきたが、多くの古代文明は自然を壊して自滅した。今、農業では、自然を破壊しない持続できる方式は何かと問われている。答えの一つが日本の水田である。水田は森の恵みを湛え、洪水を防ぎ、多様な生物を生息させる。経済的理由でどんどん水田が減っているが、生物多様性と環境維持の観点で、復元が求められる。



クリーンアップ作戦
毎偶数月の第2日曜日



瀬上沢ガイドツアー
毎奇数月の第2日曜日

保全案検討委員会 第1次報告

委員長 寺本 浩

21年3月より、4か所の地域を委員で見学し、瀬上沢地区の緑地保全の在り方について、意見を交換しました。これは、NPO法人ホテルのふるさと瀬上沢基金の趣旨書に沿ったものとなっております。

保全に当たっては田畑や里山の復元を基本とし、昔から地元で行われていた方法を基準とする。田であった場所は田に、畑であった場所は畑に復元し、樹林地は里山として手入れをする。区域内に新たな施設は設けず、周辺の学校や商業施設などの既存施設を利用させていただけるようにする。古道を散策路として整備する。これらに際しては、地元の方のお話を聞きできるだけそれにあった形にする。水路については不明の点が多いが、適切に整備する。貝化石、横穴墓、製鉄遺跡、銃眼遺跡、横堰、江戸道、などの文化遺産は、散策路などを整備し良好に保存する。緑地の管理については、ボランティアが中心となり、瀬上沢に活動している団体が協力して運営する組織を作る。舞岡上郷線は、道路で遮断された東側と西側の緑地を人間とともに生物の自由な行き来ができるように、バイアダクト（陸橋）方式にするよう行政に働きかける。

今後、保全の概念図作製など更に具体化していきます。



「瀬上沢保全のあり方」を検討する一例に、現在保全に向けて具体化が進められている「鎌倉広町の森」を見学しました。

基金 PR 用冊子「瀬上沢よ、いつまでも・・・」を発行しました。



この冊子では、四季折々の瀬上沢の自然や生物の美しい写真と、瀬上沢への思いを込めたエッセイで、瀬上沢の大切さを紹介しています。

これは、瀬上沢のすばらしさを写真とエッセイで紹介している、(Mo〇さんこと) 夢生 陽：むう あきら 氏と、支援いただいた関係者のご協力により完成したものです。

多くの方々に、瀬上沢の素晴らしさを知って頂けるよう、この冊子を当基金の PR 活動に役立てていきたいと思っております。

* 著 者 夢生 陽 (むう あきら) — 写真・文

* 発 行・監 修 ホタルのふるさと瀬上沢基金

* B5版 35頁

【本冊子についてお問い合わせは、基金役員又は
こちら迄→segamikikin@gmail.com 】

「ホタルのふるさと瀬上沢基金 第1回通常総会」が開催されました。

平成 21 年 6 月 21 日 (日) (12 時 15 分～14 時 30 分)、港南台地区センターに於いて、ホタルのふるさと瀬上沢基金第 1 回通常総会が、開催されました。

第 1 部は、はじめに当基金顧問で、かながわみどり財団、神奈川県自然保護協会理事長の新堀豊彦氏にご挨拶をいただきました。

総会成立要件確認の後議事に入り、1号から6号議案まで全議案が承認可決されました。

なお、第 1 部終了後開催された臨時理事会において理事互選により、理事長；角田東一、副理事長；寺本浩、藤田みちる、が再任されました。引き続き第 2 部として交流会がおこなわれ、親睦と意見交換が行われました。

会員・寄付の状況 (平成 21 年 12 月末現在)

個人 正会員 79 名 法人 正会員 1 名

個人賛助会員 109 名 法人賛助会員 3 名 JF 会員 19 名

寄付者 延べ 531 名 寄付金額累計 218 万円

「ホタルのふるさと瀬上沢基金」は 緑地の取得や保全に取り組みます

1. 基金募集事業を行ないます
瀬上沢緑地の取得・借用、緑地の維持管理のための基金を募ります
2. 里山の下草刈りや道路付近の清掃活動を支援します
里地里山の整備、田畑の復活、援農等を行ないます



編集後記

飛ぶように過ぎた一年でした。
基金の企業廻りも始まりましたが
経済状況が見えてきます。COP
15 で世界的な環境への取り組みが
確認されました。まずは身近な緑を
守るところから始めましょう。 F